

## 2020年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。
学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は教育活動（必修科目・選択科目）、特別教育活動（クラブ活動・生徒会）、安全管理、運営（図書）、学校いじめ防止方針に基づく取組の実施状況について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
<b>教育活動</b>					
<b>必修科目</b>	国語 読解および表現活動を中心に授業を展開し、論理的思考力、表現力、語彙力の向上を図る。古典の学習を通じて、伝統文化の本質および古典を学ぶ現代的意義を体得できるようにする。	幅広い時代の多様な文章に触れる。読解の解説にとどまらず、発展的に考え、表現する機会を設け、理解が深まるよう導く。	音読や発表、話し合い等が難しい状況だったが、具体的な方策の実施に努め、一定の成果を上げることができた。	B	目標をより高い水準で達成できるよう、新たなツールも活用しながら、取り組み方をさらに工夫する。
	地理歴史 日本および世界の成り立ちや、各地域の特色を学ぶことで、社会的認識を広め、論理的思考力を養う。	資料や映像などを効果的に活用し、興味関心を高めながら、幅広い知識を習得させ、深い理解を促す。	地理的・歴史的事象やその関係性を概ね学ばせることができた。また、論理的思考力を一定程度養うことができた。	B	授業時間が潤沢にないため、授業で扱えない分野も存在する。今後とも、資料や教材の精選に努め、多角的な視野から授業を展開できるようにしたい。
	現代社会 人間としての生き方や、現代の政治・経済・国際関係などについて理解を深め、主体的に考察する力を養う。	特定の内容に偏らないように留意し、分野横断的なテーマの取り扱いも行う。資料をもとに諸課題を考察する。	遠隔授業において、オンデマンドビデオやリアルタイム授業を行った。またMS Teamsを用い各生徒の学習をサポートした。	B	MSTeamsをより活用して、オンラインディスカッションや調べ学習など、教員生徒間や生徒同士の主体的な学びあいの機会を作る。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	多くの生徒は前向きに取り組んでいたが、一部遠隔での学習において、取り残される生徒も見られた。	A	より自主的な学習習慣と、より正確な計算力が備わるように遠隔授業も含め工夫したい。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、生活に関わる現象が科学と密接に関連していることを理解する。	遠隔授業で基礎知識の定着を主に図り、対面授業では体験的な実験、観察を中心に実施して、現象と科学的知識の関連を理解させる。	コロナ禍の中、オンライン、対面とも極力直接的な体験を提供するよう工夫した。結果例年に近い学習を提供できた。	A	突発的な休校にも対応できる、学習材料の事前準備や、対面授業でもより効率よく実験を行う工夫の必要性を強く感じた。
	保健体育 身体活動を通じ、運動やスポーツの技能を高め、将来の健康的な生活習慣の礎を築く。健康に対する知識を身につけ理解を深める。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分する。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習する。	実技については、コロナ禍で十分な時間確保が出来なかった。BLSについてはオンライン、対面とも動画などを通して体験できるように工夫した。結果例年に近い学習を提供できた。	B	引き続き、健康と安全への理解が深まるよう創意工夫したい。近年、夏場に高温の日が続くため、「熱中症対策」の重要性を感じている。特に暑い体育館内、屋外での実技に関しては細心の注意を払うべきであろう。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	芸術 豊かな表現力と幅広い知識、加えて鑑賞する能力を高める。	基礎知識および表現方法を講義、実習において会得する。さらに芸術作品を鑑賞することにより感性を高める。	生徒の芸術に対する関心や創作意欲を高めるという点において、概ね目標は達成出来た。	A	引き続き芸術への理解が深まるように創意工夫し、高いレベルの表現を追求させたい。
	外国語 英語 4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成することはもちろん、多言語・多文化への理解を育む。  第二外国語 ・基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。 ・それぞれの言語を通じて他文化への理解を深める。	語彙・文法事項の習得に加え、ペアワークや発表活動を通じて、対話や表現の技術を高める機会を提供する。  ・2年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。 ・全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、3年次での学習にも繋げる。	4技能のバランスを意識した授業を行い、概ね目標を達成できた。  生徒のレベル差が見られる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B  B	良質なインプット、生徒1人あたりのアウトプット、教員から生徒へのフィードバックをさらに増やすべく、工夫を重ねる。  ・定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ・リスニング練習の回数を増やす。 ・実践の機会をさらに増やす。
	家庭 独り立ちに必要な知識と技術の習得を図り、持続可能な生活を営む態度を育む。	生活がどのように環境・社会問題とつながっているのかにも目を向けて学び、持続可能な生活について考える。	各学習テーマの中で持続可能な生活について触れ、理解度には差があるが、概ね達成することができた。	B	より具体的な事例を挙げることにより、持続可能な生活のために自分ができることを考えさせる。
	情報 教科情報に限らず、他教科での学習活動にも貢献できるよう、ネットを通じた学習環境の整備に努める。	電子メールの使い方を確認させるとともに、適切に使用できるよう実践的な指導を行う。	一斉休校という想定外の事態への対応としては、大多数の生徒に十分な指導が実施できた。	B	日ごろから、いつでもネットを活用したコミュニケーションが実施できるように準備をしておくことが必要であり、生徒のSNSに偏ったネット活用を改善していく必要がある。
選択科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生においては、選択必修科目として、第2外国語3科目（ドイツ語Ⅰ・フランス語Ⅰ・中国語Ⅰ）の中から1科目を履修することになっている。</li> <li>・3年生において、医学部・理工学部を志望する者は12単位、それ以外の者は9単位。志望する学部によって履修すべき指定科目がある。</li> <li>・また、3年生の社会では、日本史B・地理Bのいずれか1科目選択。</li> </ul>				
	国語 必修の授業では扱いにくい発展的な内容の教材に取り組みさせることを通じて、言葉や伝統文化に対する探求心をより一層高める。	担当者の専門性を生かして、高度な作品を読み込む。自分で課題を設定し、思索することとおして、実感を伴った理解につなげる。	具体的な方策に基づいて生徒の知的好奇心を刺激し、探究心を高めることができた。	A	引き続き高度な内容を扱い、表面的な理解に留まることなく、本質的な部分に迫る授業を目指す。
	社会 高校最終学年として、政治・経済・法律・歴史、各分野の理解を深め、思考力を高めるとともに、学部選択の一助となる。	各分野において、大学での学問を意識して授業を構成する。	遠隔授業において、オンデマンドビデオやリアルタイム授業を行った。またMS Teamsを用い各生徒の学習をサポートした。	B	MSTeamsを活用して、さまざまな資料や応用課題・クイズ、さらなる学習のための文献を紹介するなど、より学問的知見に触れられる機会を作る。
	数学 基礎学力を充実させ、論理的思考力を育む。大学進学後に要求される高度な思考力、迅速かつ正確な計算力を養成する。	3年次に4科目を設置する。大学の授業に円滑につながるよう、授業を工夫する。	多くの生徒は前向きに取り組んでいたが、一部遠隔での学習において、取り残される生徒も見られた。	A	より自主的な学習習慣が備わるように遠隔授業も含め工夫したい。
	理科 必修科目を通じて修得した知識、技能をより高め、専門性の高い環境で活躍できる基礎を醸成する。	より専門性の高い実習を行い、また問題演習なども扱うことで、深い現象理解と高い解法スキルを養う。	理解の促進をオンライン授業、実習などの体験を対面授業に配分し、例年に近い進捗を確保することができた。	A	卒業研究においては、オンラインの時期の学習が課題中心となり、自分で採ったデータの解析力、文章化する表現力の訓練が不足したことを改善したい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
選択科目	芸術 これまでに授業で培った知識を基に、豊かな表現力と幅広い感性で、各自の課題に取り組む。	基礎知識や表現の経験を基に高度な内容で実習する。さらに、芸術作品を鑑賞することにより感性も高める。	少人数クラスの利点を生かし、生徒の芸術に対する専門的興味に対応した課題設定をし、概ね目標は達成できた。	A	引き続き芸術への理解が深まるように適切な指導を行い、高い到達度を設定する。
	英語 学習者それぞれの目的、伸ばすべき技能、関心のあるジャンルを見極め、新たな視点から英語と向き合いながら、語学力を育成し、文化的素養を身につける。	映像から学ぶ「ETCetc.」、英語文化・文学を楽しむ「英語文学・文化入門」、高度な英語力を向上させる「Advanced English」、英語検定試験を目標に定めた「英語検定試験対策」、そして英語で世界を学ぶ「時事英語」を設置クラスとする。「ETCetc.」、「英語検定試験対策」では15人以下による少人数制教育を実施する。	各設置クラスにおいて、学習者の目的や関心に応じた授業を概ね展開することができた。また少人数制を実施したクラスでは、生徒が積極的に参加しやすい授業作りと、教員からのよりきめ細かい指導も達成できた。	B	選択科目の特徴をより活かし、学習者それぞれの目的や関心にえられる授業展開を目指す。
	第二外国語 「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばし、総合力を高める中で、異文化理解も深めていく。また、大学での学習にも繋げていく。	3年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。2年次での学習を振り返りながら、より実践的なコミュニケーション活動なども行い、向上心と意欲を高める。	生徒によって達成度は様々であるが、取組目標は概ね達成できた。	B	生徒がよりアウトプットをできるようにするため、授業展開など工夫・改善をしていきたい。
	家庭 現代における食生活、衣生活、子育ての課題を理解させ、より良い生活を営むための実践的な力を養う。	各テーマについて講義、調べ学習、実習を実施することにより、知識と技術の習得ができるよう工夫する。	グループで行う調理実習は実施できなかったが、個々で行う実習を取り入れ、概ね達成することができた。	B	これからの生活の中で必要とされる知識と技術は何か再検討し、授業内容と方法について見直す。
	情報 生徒にとってややハードルが高い内容を含む「統計」分野の理解度を向上させる。	配付資料の量を増やすなどして、復習がしやすいように配慮する。	昨年度までと比べて大きな差はなかったように思うが、遠隔授業となったこともあり、方策の効果についてははっきりしない。	B	いつ遠隔授業になるかもしれないと想定して準備したい。

### 特別教育活動

クラブ活動・生徒会	クラブ活動 クラブ活動を通じて、生徒の健全な心身の育成を目標とし、生徒の体調面に配慮した活動計画の下、安全管理・事故防止の徹底を図る。 生徒会活動 各クラブの活動をより充実させるために、経済的支援を充実させる。学校行事の運営や同窓会と共催のイベントへの積極的な参加を図る。	クラブ活動 キャプテン・マネージャー会議や監督・コーチの会等を通じて、安全管理に関する講習会を実施する。全国大会出場支援募金を行い、遠征旅費等の経済的負担を補う。 生徒会活動 球技大会・陸上運動会等、学校行事の運営に携わり、綿密な計画を立て充実した内容になるよう準備をする。	新型コロナウイルス感染拡大により、クラブ活動が中止となる期間があった。各クラブで感染防止対策の策定・徹底を図り、制限がある中で可能な範囲での活動を行った。熱中症や感染防止対策について、各会議で資料を配付し、啓発に努めた。また、感染拡大防止の観点から中止となった行事も多かったが、規模の縮小、オンライン形式等工夫しての開催がなかったイベントもあった。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止への対応が求められる状況が続くが、各クラブへの感染防止対策の徹底を図るとともに、生徒の安全確保を最優先しながら可能な範囲での活動を継続していく。指導者に対してもその点への理解を求め、協力を仰ぐ。熱中症・けが・事故等の防止策の資料を配付し、啓発に努める。支援募金は保護者会等を中心に継続して実施する。 学校行事についても開催方法の見直し・工夫を凝らし、生徒や教職員の安全を最優先しながら、無理のない範囲での実施を検討していく。
-----------	---	--	--	---	--

### 安全管理

設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。</li> <li>・教職員の相互の連携を図り、今後予測される教育施設・設備の修理・改善を積極的に行う。</li> <li>・生徒の動線に目を配りながら、安全面に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。</li> <li>・生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じて危険箇所の点検を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、並びに点検を実施し、危険箇所の発見に努めた。</li> <li>・第一校舎中央のトイレを改修できた。</li> <li>・コロナ対策で臨時の手洗い場を増設した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育施設・設備の保守・点検を定期的に継続・実施する。</li> <li>・生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じての危険箇所の発見を継続して行う。</li> <li>・校内の老朽化した部分の改修を行う。</li> </ul>
----	---	---	--	---	--

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
保健衛生	環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。保健衛生に関する情報を生徒に適宜提供する。新型コロナウイルス感染症への対応を検討する。	年2回、環境衛生調査を継続して実施する。関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。校医と連携し、有効な感染症対策を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、1回しか環境衛生調査を実施できなかった。</li> <li>・保護者向けの講演会が実施できなかった。精集捻転の啓蒙を図るプリントを配付した。</li> <li>・手探りでの感染症対策となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境調査を引き続き実施していく。特別教室のカーテンの改修を行う。</li> <li>・保健衛生に関する講演会を実施して、情報発信していく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症への対応を引き続き検討する。</li> </ul>
危機管理	生徒・教職員が安全で安心して学校生活を送ることができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育を推進する。</li> <li>・安全管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施。</li> <li>・生徒・教職員対象のBLS講習の実施。</li> <li>・緊急時一斉連絡システムの継続。</li> <li>・熱中症対策の啓蒙、啓発プリントの配付。</li> <li>・9月に備品の補充点検の実施。</li> </ul>	<p>コロナ禍で、計画していた行事のほとんどが中止となった。</p> <p>緊急時一斉連絡システムで、登校できない期間の生徒との連絡に活用した。</p> <p>未曾有の事態に、学校としての意思決定の難しさを実感した。</p>	A	非常時の意思決定の方法について検討する。非常事態が起こる前に、想定される対応策を準備する。
運営					
図書	国際化への取り組みとして、英語科教員と協力して外国図書（バイリンガル含む）の選書を強化する。3年生に向け、論文の書き方「卒業研究対策シリーズ」を更新する。	外国語の書架を、利用しやすい配列とし、一般図書からバイリンガル資料を移設する。論文の書き方「卒業研究対策シリーズ」はPDFでも提供する。	外国図書拡充のため、英語科教員による100冊程度の選書を実施した。バイリンガル資料と外国語漫画を別置して、利用の促進に繋がった。	A	各教科の教員と連携し、普段とは異なる選書（企画）を行いたい。その一例として、教員推薦の学習漫画等がある。また、学校資料のアーカイブ化を行い、生徒向けに活用する。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況					
いじめ防止対策	生徒の声を受け止め、しっかり向き合う。迅速に、組織的に対応する。保護者、関係機関との連携を図る。教員向け講座を実施し、教員の対応のスキルアップを図る。インターネット上のいじめへの対応を検討する。	担任による個人面談、保護者との面談を実施する。ホームルーム、部活動を通して望ましい人間関係の構築を進める。いじめ事案に対し、いじめ防止対策委員会を核とした対応を行う。あらゆる情報に迅速に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者との面談を必要に応じて実施した。</li> <li>・保護者、生徒に相談室の積極的利用を促し、相談室と連携して対応した。</li> <li>・コロナ禍で、教員向け講座の開催ができなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者との面談を積極的に実施するように面談週間を設ける。</li> <li>・今年度は実施できなかった相談室の利用を促進するための保護者向けの講演会を実施する。</li> <li>・今年度実施できなかった教員向け講座を実施する。</li> </ul>